

## 愛媛教職員組合研修会 「えひめ冬物語」

2019年2月16日(土)、研修会「えひめ冬物語」を今治市総合福祉センターで開催しました。その内容をお知らせします。

### 1 愛媛教職員組合紹介DVD上映(活動のダイジェスト版)

- ★春から夏にかけての教員採用試験学習会。
- ★夏の研修会(水平社博物館(奈良)、国立療養所大島青松園・長島愛生園などの現地学習)
- ★秋の愛媛・父母と教職員の教育研究会での講演を一部紹介。
  - ・福田誠治さん「学力とはそういうものではありませんーフィンランド教育から考えるー」
  - ・森達也さん「世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」
  - ・魁生由美子さん「在日外国人の人権ー四国朝鮮初中級学校で見たこと・考えたことー」
  - ・川口泰司さん「ネット社会と部落差別の現実ー『寝た子』はネットで起こされる!ー」
- ★冬の研修会(合理的配慮・LGBTの学習・上映会「ある精肉店のはなし」など)
- ★教育改革アンケートの実施を踏まえての県教委・人事委員会交渉。

**数々の活動を積み重ねてきました!!**

### 2 実践交流(レポート発表)



#### 1. ディベート ～原子力発電は必要か、それとも必要でないか?!～ 報告：堤 剛(中学校)

- 原子力発電に賛成するグループ(9人)
- 原子力発電に反対するグループ(6人)

#### 課題の確認

#### 『原子力発電のメリット、デメリットについて真剣に考えていく』

- 賛成側意見発表・・・制限時間5分で原子力発電になぜ賛成なのか発表してもらいます。
- 作戦会議・・・制限時間2分で原子力発電に反対のグループは、原子力発電に賛成の発表を受けて反論をするための作

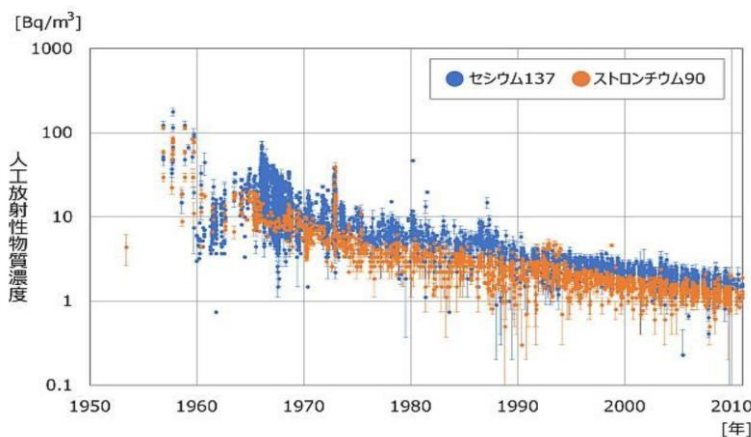
戦を練ってください。賛成のグループは反論に対する作戦を練ってください。

- 反論（質疑応答）・・・制限時間 7 分で原子力発電に反対のグループは反論を述べてください。
- 攻守交代（計 14 分）
- フリートーク・・・・・・制限時間 10 分、制限時間があったので十分に相手チームに反論したり、質問したり、相手の質問に答えたりすることができなかったと思うので、自由に発言する時間を設定します。ジャッジ前の最終の時間になります。言い残しのないよう十分に議論し深めましょう！！
- それでは、3 名の先生にジャッジをしてもらいます。よろしくお願いします。
- 学習を通じ、考えたことを記録に残してみよう。
- メリットとデメリットどちらが大きいのが大変重要になってくる。メリットばかりで、デメリットのない技術は大変難しい。新しい技術を開発していくことは大切である。

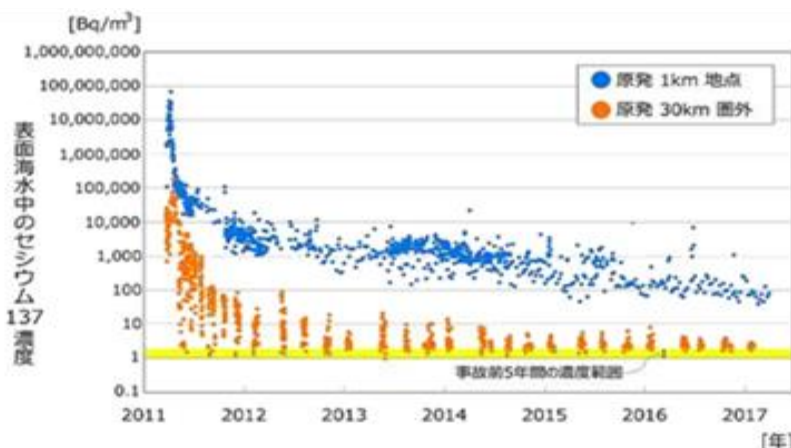
### 《参加者感想》

- ・社会的な問題は、つつい授業で取り上げるのに及び腰になりがちですが、思い切って実践されたのがすばらしかったです。参考になりました。
- ・賛成派、反対派にわかれて論拠を積み上げさせる。教員の中立性を守りながらも、子どもたちを鍛えていく方法が、教科を問わず実践されていることに敬意を表します。

## 2. 「福島原発事故は終わっていない」 報告：田中 正史（小学校） 福島原発からもれ続ける放射能 講談社ブルーバックス HP より



1950～1960 年代にかけて、米ソの核実験により北太平洋は放射能に汚染された。その後、急激に減少している。（左グラフ）縦軸は対数になっている。2011 年の福島放射性物質の影響はないように見えるが、セシウム 137 の総量は 22～27% 増加している。



福島のセシウム 137 の量も急激に減少しているが、事故前のレベルにもどっていない。（左下グラフ）青が原発 1km の圏内、オレンジが原発 30km の圏外である。縦軸は対数なので、どちらも急激に減少はしているが、黄色の範囲である事故前のレベルに下がりきっていない。これは事故を起こした原発から放射能がもれ続けていることを示している。

### 2015.12.11 東日本大震災復興及び原子力問題特別委員会(抜粋)

山本太郎議員による質疑を抜粋する。「小児甲状腺がんは年間 100 万人に一人の頻度（日本原子力学会誌 2011 年 10 月）であるが、38 万人に 158 人（2011～2015 年）で見つまっていることを踏まえて、「福島の小児甲状腺がんが多発しているのか。」の質疑に対して、環境省保健部長の北島氏は「被曝による過剰発生か過剰診断のいずれかが考えられるとしたうえで、過剰発生を完全に否定するものではないが、過剰診断の可能性が高い。との意見があった旨が記載。」と回答。自分の意見を答えていない。これに対して県民健康調査の甲状腺検査評価部会、部会長の清水氏は「いずれにせよ、予想を超えるような多発が起こっているのは事実。」と述べている。清水氏は「部会長の立場では自分の意見が言えない。」として部会長を辞任した。

朝日新聞、声の欄に中学教員は「新聞やニュースで事故のことはよく知っている。そのような考えがいかに浅はかだったことを思い知らされた。」と現場に行つての感想を書いている。

私は、5 年前に当時小学 3 年生の娘と被災地を訪問した。その時の感想がある「福島のことくやしい。津波に人がとられて人が苦しんでいると思った。家族がおらんくなって、原子力発電所も爆発して、行って見て本当に怖かった。テレビで見てよくわからなかったけど、行って見て本当に怖いと思った。」

#### 《参加者感想》

- ・福島原発の事故がまだ続いていることを、できるだけ平易な科学的な知識を用いて問いかけ、考えさせられる実践だったと思います。また「わかる」ということのあるあり方を問いながら、「かわる」ことの必要性を説く内容だったことを思い、感銘を受けました。
- ・小学 6 年生が福島に行って見て、「本当に怖いな。」「どうすることもできない。」の感想。言葉の重みを考えさせられた。自分自身の無知を感じた。学ばなくてはならない。

### 3 上映会「祝（ほうり）の島」

2010 年 監督：瀬藤 あや(はなぶさ あや) ・ 製作：ポレポレタイムス社

1000 年前、沖で難破した船を助けたことから農耕がもたらされ、子孫が栄え、現在に至るまで、いのちをつないできた小さな島がある。

#### “山口県上関町祝島”

瀬戸内海に浮かぶこの島は、台風が直撃することも多く岩だらけの土地には確保できる真水も限られ、人が暮らしやすい環境とは決していえない。その中で人々は、海からもたらされる豊かな恵みに支えられ、岩山を開墾し、暮らしを営んできた。そして互いに助け合い、分かちあう共同体としての結びつきが育まれた。人間の営みが自然の循環の一部であることが、祝島でははっきりと見える。

「海は私たちの、いのち」と島の人は言う。

1982 年、島の対岸 4km に原子力発電所の建設計画が持ち上がった。「海と山さえあれば生きていける。だからわたらの



代で海は売れん」という祝島の人々は、以来 28 年間反対を続けている。

効率と利益を追い求める社会が生み出した原発。大きな時間の流れと共にある島の生活。原発予定地と祝島の集落は海を挟んで向かい合っている。

1000 年先の未来が今の暮らしの続きにあると思うとき、私たちは何を選ぶのか。いのちをつなぐ暮らし。祝島にはそのヒントがたくさん詰まっている。

### 《参加者感想》

- ・ドキュメンタリー映画「祝の島」では、島の生活が静かに写し出され、原発反対の行動が、自然の中で生きる人間の営みの延長として、まるで島の声のように描かれていた。弱者が切り捨てられ、「今だけ、自分だけ、カネだけ」が止まらない時代に、私たちが学ばなければいけない大切な生き方が示されているのだと思った。私たち教育に携わる者も、それぞれの立場で自分たちの足元を見つめながら、生き方の修復をしていく時代なのではないかと反省をかみしめて感じている。
- ・原発問題に限らずあらゆる問題において“反対派”はハッキリとその姿が見えるのに対し、反対派がいる中で、ものごとを進める推進派の姿が見えないなあ…。と気付きました。ぼんやりと推進へ空気をつくっている、どっちつかず派にならないようにしたいと思います。
- ・原発によって反対の人も賛成の人も「心がズタズタにされた。」という言葉が印象的だった。ただ反対なわけじゃない。海が守られない。納得がいく説明でない。ということは作る側も、作るとどんなことが起こるか十分に理解できていない。ということではないだろうか。
- ・そこに根ざして生きているという実感がある。そこで採れる作物、魚を食べて生きているという実感があるから、自分たちの自然環境を守りたいという強い思いがわく。
- ・原子力以外に代替エネルギーがないのならともかく、都合の良い理由をつけて建設を推進する必要はないと感じた。
- ・大切なことを訴え守っていくには、たとえ最後の一人になっても、守り抜かなくてはならないと思いました。
- ・宝の海の存続が危ぶまれている。海あつての島民の暮らしが、原発建設によって失われようとしている祝の島という島が、生きるか死ぬかが問われる問題だ。
- ・原発問題で自分の背丈以上の生活をしている。戦争を経験しているから、耐える（我慢する）力がある。宝の海、反対の運動を続けられる。人が人らしく生きる様子を見せていただき、その明るさ、つながり、力強さに学ばせていただいた。

## 子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう!

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会（研究会）を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。

質問や感想がございましたら、お気軽にご連絡ください。

TEL(089)924-4546 / FAX(089)924-4403 / e-mail [jtuehime@lime.ocn.ne.jp](mailto:jtuehime@lime.ocn.ne.jp)

HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛

